



まがたま

一人一人が輝く学校・地域と共に歩む学校

令和8年 1月30日
豊玉中学校だより No. 31

E-mail]matsushitayoko2@nerima-ty.ed.jp

URL]https://www.nerimty.ed.jp/toyotama-j/

大寒を過ぎ、窓の外には依然として厳しい寒さが残りますが、校庭の梅のつぼみは着実に膨らみ始め、季節の移ろいを感じる頃となりました。保護者・地域の皆様には、日頃より本校の教育活動を温かく支えていただき、心より感謝申し上げます。

三学期が始まって三週間あまりが過ぎました。生徒たちは今、それぞれの場所でこの冬の課題に向き合っています。一年生は先日実施した川越での校外学習において、班行動を通じた「自律」への手応えを掴みました。また、現在行われている二年生のスキー移動教室では、不慣れな雪山という環境の中で、仲間と支え合いながら困難を乗り越えようとする頼もしい姿が見られます。

一方、学校で過ごす三年生も、いよいよ進路実現に向けて力を発揮する大切な時期を迎えています。休み時間は中学生らしい活気に溢れていますが、授業に向かう表情には、自らの将来を見据える真剣な覚悟が感じられます。不安や葛藤を抱えながらも、一歩ずつ着実に歩みを進める生徒たちの挑戦を、教職員一同、これからも温かく見守り、エールを送り続けてまいりたいと考えております。

年度末に向け、生徒一人一人が自分らしい「春」を晴れやかに迎えられよう、一日一日を大切に過ごしてまいります。今後とも変わらぬご支援を賜りますよう、よろしくお願いいたします。

令和8年1月8日 三学期始業式 ～ 校長講話より ～

おはようございます。そして、あけましておめでとうございます。年が明け、元気な姿を見られて心から嬉しく思い、安堵もしています。あいさつや表情から、充実した冬休みを過ごしたのだと感じました。こうして新しい年を迎え、3学期が始まったことを改めて嬉しく感じています。この一年の始まりに、みなさんと共に歩み出せることを大切にしたいと思います。

令和8年3学期始業式の話として、「『できない』を『できる』に変える力」についてお話しします。昨年ノーベル賞を受賞した二人の科学者を、みなさんは覚えていますか。その二人とは、化学賞の 北川 進 先生と、生理学・医学賞の 坂口 志文 先生です。お二方は世界に認められる研究を成し遂げましたが、その道のりは決して平坦ではありませんでした。お二方には、興味深い共通点がいくつかあります。

化学賞の北川先生は、「多孔性材料」という一見役に立たないに見える物質を研究し続けました。「多孔性材料」とは、無数の小さな孔が空いていて、気体や液体を吸着したり分離したりできる特性をもつ材料です。研究初期には「そんな孔の開いた材料は不安定で存在するはずがない」「解析が間違っている」と批判されました。国際会議で集中砲火を浴び、「悔しさがこみ上げて汗か涙か分からないものを流した」と振り返っています。それでも先生は、「つらいこともいっぱいあるが、研究を楽しんできた」と語り、挑戦そのものを楽しみ続けました。現在では、この材料は環境浄化やエネルギー分野など、さまざまな場面で活用が期待されています。

生理学・医学賞の坂口先生もまた、免疫の働きを抑えるブレーキ役の細胞——「制御性 T 細胞 (Treg)」を発見したとき、学会で「そんなものは存在しない」と強く否定されました。それでも研究を続け、今では自己免疫疾患やアレルギー、がん治療に希望をもたらす存在となっています。Treg の働きが解明されたことで、免疫の暴走を抑えたり、逆にがん治療で免疫を活性化させたりする新しい医療の可能性が広がっています。先生は「生命の不思議を探究する喜びを次の世代へ」と語り、挑戦を楽しむ心を若い人に伝えています。

挑戦を楽しむこと。これがお二方に共通する第一の姿勢です。とはいえ、受験を控えた3年生のみなさんにとって、挑戦を“楽しむ”ことは簡単ではないかもしれません。それでも、努力の中に小さな手応えや成長を感じる瞬間があります。その一瞬一瞬が、挑戦を続ける力になります。学習で思うようにいかないときこそ、挑戦の中にある小さな前進を大切にしてください。

次の共通点は、興味や好奇心を持ち続けることです。北川先生は「宝くじを突然引いたのではない。育っていく中で出会うことを大切にすると花開く」と述べています。坂口先生も「自分が興味のあることを大切に」と若い世代に語りました。好奇心や出会いを大切にすることが未来につながるのです。みなさんも「なぜ」「どうして」という気持ち

を忘れないでください。小さな疑問が大きな発見につながります。学級での話し合い、日常の出来事、身近な自然の観察など、どんな場面でも好奇心をもつことが未来への第一歩となります。

さらに大切な共通点は、仲間と協力することです。北川先生は「仲間と一緒にシェアしたい」と受賞の喜びを分かち合いました。坂口先生も「研究は一人ではできない」と語り、仲間や家族への感謝を示しました。成果は仲間との協力から生まれるのです。みなさんも、友だちや先生と力を合わせることで、一人ではできないことを成し遂げられます。学級での活動や部活動、学校行事など、仲間と協力することで達成感や喜びは何倍にも広がります。

最後の共通点は、粘り強く続けることです。北川先生は長年研究を続け、成果を証明しました。坂口先生は「頑固にやってきたことが今日につながった」と振り返りました。失敗しても諦めず、続けることが未来を切り拓きます。みなさんも、学習や部活動で思うようにいかないとき、すぐに諦めるのではなく、粘り強く続けてください。その積み重ねが必ず力となり、未来を開く原動力になります。

挑戦を楽しむこと、好奇心を持ち続けること、仲間と協力すること、そして粘り強く続けること。お二方が示してくれたこうした姿勢は、『できない』を『できる』に変える力を育てていきます。その力が、みなさん一人一人の成長を促すのです。3年生は、進路実現に向けて挑戦を重ね、努力を積み上げて夢を形にしてください。1・2年生は、次の学年に備えて基礎を固め、好奇心をもって新しい分野に挑戦してください。

部活動や学校行事では仲間と協力し、練習や準備を通して未来へとつなげてください。

未来は、今日の一步から始まります。「『できない』を『できる』に変える力」を胸に、共に進んでいきましょう。

～令和8年、良いスタートをきりました～

1月の「生徒たちがはつらつと取り組む姿、活躍そして頑張り」をご紹介します。

◆練馬区立中学校連合ダンス発表会◆[1月16日(金)]

2学期の校内ダンス発表会で最優秀賞に選ばれた2年A組が、学校代表として参加しました。

テーマ「ハッピー☆スイッチ!～笑顔は連鎖する～」のとおりに、会場が明るさと元気で一杯となる息の合った素晴らしい演技を披露しました。



◆研究授業◆[1月23日(金)]



練馬区中学校社会科教育研究会主催の研究授業での3年B組の様子です。

深刻な社会問題である人口減少・過疎化を題材とし、2年次に移動教室で訪れた武石の過疎化対策を具体的に考える授業でした。

グループの話し合いで出た対策案を生成AIに様々な観点から批評してもらい、それを基に、さらに再検討するという内容です。いずれのグループも、対策案をどんどんホワイトボードに書き進めていく姿が見られました。正解のない課題に対して、様々なツールを用いて最適解を導き出そうと皆で考える真剣な姿は、日本の将来を担っていく若者の姿そのものでした。さすが3年生、という思いを誰もが感じた50分間でした。

◆1学年校外学習◆[1月27日(火)]

中学校初の校外学習で、川越に行ってきました。事前学習で取り組んだ行動計画を基に、集合から解散まで、すべて班行動の1日。個人行動をせず、班で一致団結して、川越城本丸御殿や市立博物館、喜多院、川越まつり会館などの施設を巡り、「小江戸川越」の街並みの一部になって学習してきました。

楽しむところは楽しみつつ、マナーやルールを守って無事に全班が練馬駅での解散ができました。

見学、体験を通して得た気づきや疑問を、事後学習で自分の言葉で表現、発表することで、1年生はさらに学びを深めていきます。

